

項目	現行	改訂
第4編 施設編 第5章 係留施設 5.2.1 性能照査の基本 P.1109		<p>(8) 栈橋の上部工は、一般にコンクリート構造であり、海水面から非常に近い位置にあるので、塩害による著しい性能低下が生じやすい。維持管理レベルⅠを設定した栈橋の上部工においては、第4編第2章1.1.7性能の経時変化に対する検討により、設計供用期間中に鉄筋の腐食が生じないことを設計時点で確認する必要がある。なお、塩害対策として、普通鉄筋であってもかぶりや水セメント比の選択によって設計供用期間中に鉄筋腐食が発生しないようにする方策、エポキシ樹脂塗装鉄筋や連続繊維補強材等の高耐久補強材を使用する方策⁰⁻¹⁾⁰⁻²⁾⁰⁻³⁾⁰⁻⁴⁾、表面被覆やセメント硬化体組織の緻密化等により外部からの劣化因子（塩化物イオン等）の浸透を抑制する方策⁰⁻⁵⁾⁰⁻⁶⁾⁰⁻⁷⁾⁰⁻⁸⁾、電気防食により鋼材腐食を抑制する方策⁰⁻⁹⁾等が考えられる。これらの方策のほか、新たに開発された材料および工法の適用を検討するにあたっては、その特性を十分に理解した上で、施工条件や施工後の維持管理方法等についても考慮しなければならない。具体的な対策方法の選定にあたっては、「維持管理を考慮した栈橋の設計マニュアル（案）」⁰⁻¹⁰⁾を参考にすることができる。</p>
第4編 施設編 第5章 係留施設 5 栈橋 P.1145	<p>[参考文献]</p>	<p>[参考文献]</p> <p>0-1) 土木学会：エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針 [改訂版]，土木学会コンクリートライブラリーNo.112，2003</p> <p>0-2) ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.130，2008</p> <p>0-3) 連続繊維補強材を用いたコンクリート構造物の設計・施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.88，1996</p> <p>0-4) エポキシ樹脂を用いた高機能PC鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.133，2010</p> <p>0-5) 超高強度繊維補強コンクリートの設計・施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.113，2004</p> <p>0-6) 複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料設計・施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.127，2007</p> <p>0-7) 表面保護工法設計施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.119，2005</p> <p>0-8) けい酸塩系表面含浸工法の設計施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.136，2012</p> <p>0-9) 電気化学的防食工法設計施工指針（案），土木学会コンクリートライブラリーNo.107，2001</p> <p>0-10) 岩波光保・加藤絵万・川端雄一郎：維持管理を考慮した栈橋の設計手法の提案：港湾空港技術研究所資料 No.1268、2013</p>